

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻（D）

1. 学位授与の考え方において、学位論文の質の担保に関する審査の観点は示されているものの、関連する学会誌等への受理要件等が課されておらず、当該論文がどのような指標に基づきリハビリテーション学の領域に属するものと判断されるのかが不明確である。この点について明確となるよう説明するか、適切に修正すること。（是正事項）・・・1
2. 本学の言う「地域生活の視点から社会的統合を目指す『総合リハビリテーション学』」における、「社会的再統合」の用語について、その学術的概念が不明瞭であることから、この内容について説明すること。（是正事項）・・・2
3. カリキュラム・ポリシーについて、項目ごとに主語が統一されていない記載であると見受けられるため、主語を補うなど、表記について適切にあらためること。また、ディプロマ・ポリシーについても、記載の適切化を図ること。（改善事項）・・・3
4. シラバスにおける成績評価基準について、二年次配当科目である「特別研究指導Ⅱ」において、「博士論文を総合的に評価する。」との記載があるなど、具体的な評価方法が不明瞭な科目が散見されることから、評価基準を明確に記載した上で適切に改めること。（是正事項）・・・4
5. 「専攻分野の教員及び学位論文内容に関連する教員の中から5名以上の審査委員を選出する。」との記載がなされているが、「帝京科学大学学位規程」第8条の規定と整合していないように見受けられるので、適切に修正すること。（是正事項）・・・5
6. 「現職の医療専門職者、その他リハビリテーション関連職種者を含めた社会人に門戸を開放する教育機関を目指している」との記載がなされているが、授業の開始時間の設定が、社会人を対象とするものとして適切であるか疑義があることから、社会人学生への支援体制や配慮の方策について

具体的に示すこと。また、教員負担への配慮に関し、既設の学部教育及び管理運営業務等を含めた全体の負担量が不明であるため、専任教員ごとの負担量が分かる資料を示すこと。(是正事項) 6

7. 研究倫理審査体制について、学内者のみで構成されており中立性の観点から疑義があることから、適切に改めることが望ましい。(改善事項) . . . 7

8. 研究指導の実施に当たっては、教育体制の充実、ハラスメント対策等の観点から複数指導体制が確保されることが望ましいことから、その実施について検討すること。(改善事項) 8

9. 専任教員数について、大学院設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。(是正事項) 9

10. 教員の年齢構成が著しく高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にするとともに、教員配置の適正化を図ること。(是正事項) 10

11. 専攻の管理運営に関して、専攻主任の位置付けが不明瞭であることから、明らかにされることが望ましい。(改善事項) 11

(是正事項) 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 (D)

1. 学位授与の考え方において、学位論文の質の担保に関する審査の観点は示されているものの、関連する学会誌等への受理要件等が課されておらず、当該論文がどのような指標に基づきリハビリテーション学の領域に属するものと判断されるのかが不明確である。この点について明確となるよう説明するか、適切に修正すること。

(対応)

本専攻の学位分野は、保健衛生学関係(リハビリテーション学)である。学位論文については、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)等を踏まえ、高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得しているかという観点で審査を行い、次の5点で評価される旨、「設置の趣旨等を記載した書類」に追記した。

- ① 先行研究を十分に検討・吟味した上で、新しい発想に基づく研究であるか。
- ② 学術的意義を有するとともに発展性があり、社会に貢献する内容であるか。
- ③ 目的達成のための研究方法および手法が適切かつ正確であるか。
- ④ 研究の流れが明瞭に解説され、論理展開に整合性があるか。
- ⑤ 本専攻の設置の趣旨に沿うリハビリテーション学に関連する学会誌等に査読付論文として採択されていること。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料(13~14ページ)

新	旧
<p>(6) 学位授与の考え方・論文指導体制等</p> <p>1) 学位授与の考え方</p> <p>博士課程では、教育目標をふまえ、修了要件を満たした者に対して学位授与を行う。なお、本研究科が定める所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。学位論文については、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)等を踏まえ、高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得しているかという観点で審査を行い、以下の5点で評価される。</p> <ol style="list-style-type: none">① 先行研究を十分に検討・吟味した上で、新しい発想に基づく研究であるか。② 学術的意義を有するとともに発展性があり、社会に貢献する内容であるか。③ 目的達成のための研究方法および手法が適切かつ正確であるか。④ 研究の流れが明瞭に解説され、論理展開に整合性があるか。⑤ 本専攻の設置の趣旨に沿うリハビリテーション学に関連する学会誌等に査読付論文として採択されていること。	<p>(6) 学位授与の考え方・論文指導体制等</p> <p>1) 学位授与の考え方</p> <p>博士課程では、教育目標をふまえ、修了要件を満たした者に対して学位授与を行う。なお、本研究科が定める所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。学位論文については、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)等を踏まえ、高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得しているかという観点で審査を行い、以下の4点で評価される。</p> <ol style="list-style-type: none">① 先行研究を十分に検討・吟味した上で、新しい発想に基づく研究であるか。② 学術的意義を有するとともに発展性があり、社会に貢献する内容であるか。③ 目的達成のための研究方法および手法が適切かつ正確であるか。④ 研究の流れが明瞭に解説され、論理展開に整合性があるか。

2. 本学の言う「地域生活の視点から社会的統合を目指す『総合リハビリテーション学』」における、「社会的再統合」の用語について、その学術的概念が不明瞭であることから、この内容について説明すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、「社会的再統合」の学術的概念を次のとおり明確に説明すると共に「設置の趣旨等を記載した書類」に追記した。

本学が掲げる総合リハビリテーション学では、医学的な視点から「個人の機能・能力を改善もしくは向上すること」にとどまらず、「社会・心理学的な視点から対象を支援すること」を目指すものであり、これらの目的を達成するために、複数の多様な専門領域の研究者による多角的アプローチを進めることの重要性を強調している。このことを受けて本学では、今日の多様化されたリハビリテーション分野を社会的行為論またはシステム論の立場から、社会体系で生じる社会分化の状態に、異なる役割や機能をもつ新たな体系や原理によって再統合していく過程を「社会的再統合」として解釈し、「本人の障害や社会的な制約によって喪失された人権を本来のあるべき姿に取り戻すために、多角的なアプローチによって総合的（包括的）に推進する過程」を体系化された学問と捉え、「総合リハビリテーション学」と称することとしている。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (4 ページ)

新	旧
<p>1) 医療科学研究科総合リハビリテーション学専攻博士課程の内容と必要性</p> <p>本学が掲げる総合リハビリテーション学では、医学的な視点から「個人の機能・能力を改善もしくは向上すること」にとどまらず、「社会・心理学的な視点から対象を支援すること」を目指すものであり、これらの目的を達成するために、複数の多様な専門領域の研究者による多角的アプローチを進めることの重要性を強調している。このことを受けて本学では、今日の多様化されたリハビリテーション分野を社会的行為論またはシステム論の立場から、社会体系で生じる社会分化の状態に、異なる役割や機能をもつ新たな体系や原理によって再統合していく過程を「社会的再統合」として解釈し、「本人の障害や社会的な制約によって喪失された人権を本来のあるべき姿に取り戻すために、多角的なアプローチによって総合的（包括的）に推進する過程」を体系化された学問と捉え、「総合リハビリテーション学」と称することとしている。</p>	<p>1) 医療科学研究科総合リハビリテーション学専攻博士課程の内容と必要性</p> <p>本学が掲げる総合リハビリテーション学では、医学的な視点から「個人の機能・能力を改善もしくは向上すること」にとどまらず、「社会・心理学的な視点から対象を支援すること」を目指すものであり、これらの目的を達成するために、複数の多様な専門領域の研究者による多角的アプローチを進めることの重要性を強調している。このことを受けて本学では、リハビリテーションを、「本人の障害や社会的な制約によって喪失された人権を本来のあるべき姿に取り戻すために、多角的なアプローチによって総合的（包括的）に推進する過程」と解釈し、これを学問として体系化すべく「総合リハビリテーション学」と称することとしている。</p>

(改善事項) 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 (D)

3. カリキュラム・ポリシーについて、項目ごとに主語が統一されていない記載であると見受けられるため、主語を補うなど、表記について適切にあらためること。また、ディプロマ・ポリシーについても、記載の適切化を図ること。

(対応)

審査意見を踏まえ、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーを修正し、「設置の趣旨等を記載した書類」を修正した。

カリキュラムポリシー

- 1) 自らが目指す専門分野において、指導的・中心的役割を果たし臨床・教育・研究に寄与できる高度専門的職業人としての素養を備えるため、総合リハビリテーション学に関する普遍的で高度な専門的知識・技術を修得する。
- 2) 総合リハビリテーション学に関連する先進的な専門知識から、自身の専門領域に近い分野に相互連携を図る新たな知識と技術を深め、自ら高度な研究を進めることのできる実践的能力を養う。
- 3) 研究遂行のために必要な基本的事項の学修に基づき、論文を作成する過程を通じて批判力、論理性、表現力を培うための優れた専門的な研究能力を修得する。

ディプロマポリシー

- 1) 医療現場や地域社会生活においても、高い倫理観と高度の専門知識に基づいた実践能力を持ち、新たな課題解決を主体的に取り組み、常に最新の知識や技術を探求しつつ、指導的役割を担える人材。
- 2) 総合リハビリテーション学に関連する科学的根拠に基づいた論理が構築でき、常に新しい知見を真摯に学ぶとともに、自立した研究活動を遂行する人材。
- 3) 公正な研究を遂行し深い学識と高度な専門的研究能力をもつことによって、多角的かつ総合的に事象を分析でき、独創性、創造性に優れた研究能力をもつ人材。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (8ページ)

新	旧
<p>(1) 教育課程の編成の基本的な考え方 カリキュラムポリシー</p> <p>1) 自らが目指す専門分野において、指導的・中心的役割を果たし臨床・教育・研究に寄与できる高度専門的職業人としての素養を備えるため、総合リハビリテーション学に関する普遍的で高度な専門的知識・技術を修得する。</p> <p>2) 総合リハビリテーション学に関連する先進的な専門知識から、自身の専門領域に近い分野に相互連携を図る新たな知識と技術を深め、自ら高度な研究を進めることのできる実践的能力を養う。</p> <p>3) 研究遂行のために必要な基本的事項の学修に基づき、論文を作成する過程を通じて批判力、論理性、表現力を培うための優れた専門的な研究能力を修得する。</p>	<p>(1) 教育課程の編成の基本的な考え方 カリキュラムポリシー</p> <p>1) 自己の専門分野で指導的・中心的役割を果たし、臨床・教育・研究に寄与できる高度専門的職業人としての素養を備えるための普遍的で高度な専門的知識・技術について体系的かつ実践的な教育を行う。</p> <p>2) 教員相互の連携を高め、高度な教育・研究を行い、各人の希望に応じて、先進的な専門知識と技術を教授し、研究を進めることのできる教育体制を構築する。</p> <p>3) 研究のために必要な基本的事項の学修に基づき、論文作成をとおして批判力、論理性、表現力を培うための専門的研究能力を修得する。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (6～7ページ)

新	旧
<p>(3) 養成する人材像 ディプロマポリシー</p> <p>1) 医療現場や地域社会生活においても、高い倫理観と高度の専門知識に基づいた実践能力を持ち、新たな課題解決を主体的に取り組み、常に最新の知識や技術を探求しつつ、指導的役割を担える人材。</p> <p>2) 総合リハビリテーション学に関連する科学的根拠に基づいた論理が構築でき、常に新しい知見を真摯に学ぶとともに、自立した研究活動を遂行する人材。</p> <p>3) 公正な研究を遂行し深い学識と高度な専門的研究能力をもつことによって、多角的かつ総合的に事象を分析でき、独創性、創造性に優れた研究能力をもつ人材。</p>	<p>(3) 養成する人材像 ディプロマポリシー</p> <p>1) 医療現場に加えて、広く地域生活においても、高い倫理観と高度の専門知識に基づいた実践能力を持ち、新たな課題解決に主体的に取り組むことで、常に最新の知識や技術を探求し、指導的役割を担える人材。</p> <p>2) 科学的根拠に基づいた論理が構築でき、常に新しい知見を真摯に学ぶとともに、自立した研究活動を遂行する人材。</p> <p>3) 公正な研究を遂行し、深い学識と高度な専門的研究能力をもつことによって多角的かつ総合的に事象を分析でき、独創性、創造性に優れた研究能力をもつ人材。</p>

(是正事項) 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 (D)

4. シラバスにおける成績評価基準について、二年次配当科目である「特別研究指導Ⅱ」において、「博士論文を総合的に評価する。」との記載があるなど、具体的な評価方法が不明瞭な科目が散見されることから、評価基準を明確に記載した上で適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、シラバスの評価基準を明確に記載した。
シラバスの修正内容については、別紙1のとおりである。

(新旧対照表) シラバス

新	旧
別紙資料	別紙資料

5. 「専攻分野の教員及び学位論文内容に関連する教員の中から5名以上の審査委員を選出する。」との記載がなされているが、「帝京科学大学学位規程」第8条の規定と整合していないように見受けられるので、適切に修正すること。

(対応)

学位規程では、学位論文審査委員会が3名以上をもって構成すると規定しているが、帝京科学大学大学院学位審査取扱要項において、さらに詳細に修士課程と博士課程の審査委員の人数をそれぞれ規定している。そこで、「設置の趣旨等を記載した書類」を次のとおり修正する。

4) 博士論文審査体制

博士の学位論文の審査は研究科委員会で行う。学位規程では3名以上の審査委員を選出することになっているが、学位審査取扱要項に基づき、更に詳細な審査をするために専攻分野の教員及び学位論文内容に関連する教員の中から5名以上の審査委員を選出する。

学位規程

(学位論文の審査)

第8条 前条の規定により付託されて審査を行う研究科委員会は、専攻分野の教員及び学位論文に関係ある教員の中から3名以上をもって構成する学位論文審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置し、当該論文の審査を行わせるものとする。

帝京科学大学大学院学位審査取扱要項

第2章 修士の学位

(審査委員候補者の選出)

第4条 審査を行うため、専攻分野の教員及び学位論文内容に関連する教員の中から3名以上の審査委員を選出して審査委員会を設ける。

第3章 博士の学位

(論文審査委員候補者の選出)

第11条 専攻会議は、5人以上の審査委員候補者を選出する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (14ページ)

新	旧
4) 博士論文審査体制 博士の学位論文の審査は研究科委員会で行う。学位規程では3名以上の審査委員を選出することになっているが、 <u>学位審査取扱要項に基づき、更に詳細な審査をするために専攻分野の教員及び学位論文内容に関連する教員の中から5名以上の審査委員を選出する。</u>	博士の学位論文の審査は研究科委員会で行う。研究科委員会は審査を行うため、専攻分野の教員及び学位論文内容に関連する教員の中から5名以上の審査委員を選出する。

6. 「現職の医療専門職者、その他リハビリテーション関連職種者を含めた社会人に門戸を開放する教育機関を目指している」との記載がなされているが、授業の開始時間の設定が、社会人を対象とするものとして適切であるか疑義があることから、社会人学生への支援体制や配慮の方策について具体的に示すこと。また、教員負担への配慮に関し、既設の学部教育及び管理運営業務等を含めた全体の負担量が不明であるため、専任教員ごとの負担量が分かる資料を示すこと。

(対応)

本専攻では、社会人学生などへの便宜を図るため、夜間においては、平日の午後6時以降の6時限目(18:00~19:30)、7時限目(19:40~21:10)に授業を行う他、必要に応じて土曜日及び夏期休暇等の長期休暇期間を利用した集中講義を併せて行うなど、昼間の時間帯もしくは夜間の時間帯の履修により修了できるようにする。申請書に添付した時間割が本専攻で想定していた時間割と相違していたため別紙2のとおり修正した。

また、教員の授業負担については、別紙3のとおりであり、大学院担当教員の負担を軽減するために「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり追加した。

(5) 教員の負担への配慮

本専攻の入学定員は3人であるが、一人の教員に研究指導学生が集中しないように適切に調整するとともに、学部の複数教員による授業科目や実習指導の軽減を図る等の措置により、大学院担当教員の負担が過重にならないように配慮する。また、本学医療科学部の教員については、大学院担当教員との授業負担等に偏りが生じないように担当授業科目数の平準化をはかる予定である。

また、教員の授業負担については、別紙3のとおりである。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (21ページ)

新	旧
<p>(3) 授業の実施方法 講義時間は、原則月曜日から金曜日の6時限目(18:00~19:30)、7時限目(19:40~21:10)及び土曜日に設定する。なお、夏季1週間は集中講義日(予備日)とする。教員と学生の合意により、講義、研究指導などを実施する。社会人学生などへの便宜を図るため、授業は、可能な限り昼夜間に重複して開講する。加えて、必要に応じて土曜日及び夏期休暇等の長期休暇期間を利用した集中講義を併せて行うなど、昼間の時間帯もしくは夜間の時間帯の履修により修了できるようにする。</p>	<p>(3) 授業の実施方法 講義時間は、月曜日から土曜日 9:00~21:10 の時間に設定する。なお、夏季1週間は集中講義日(予備日)とする。教員と学生の合意により、講義、研究指導などを実施する。社会人学生などへの便宜を図るため、授業は、可能な限り昼夜間に重複して開講する。夜間においては、平日の午後6時以降の6時限目(18:00~19:30)、7時限目(19:40~21:10)に授業を行う他、必要に応じて土曜日及び夏期休暇等の長期休暇期間を利用した集中講義を併せて行うなど、昼間の時間帯もしくは夜間の時間帯の履修により修了できるようにする。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (21ページ)

新	旧
<p>(5) 教員の負担への配慮 博士課程の入学定員は2人であるが、一人の教員に研究指導学生が集中しないように適切に調整するとともに、学部の授業科目や実習指導の軽減を図る等の措置により、大学院担当教員の負担が過重にならないように配慮する。また、本学医療科学部の教員については、大学院担当教員との授業負担等に偏りが生じないように担当授業科目数の平準化をはかる予定である。</p>	<p>(5) 教員の負担への配慮 博士課程の入学定員は2人であるが、一人の教員に研究指導学生が集中しないように適切に調整するとともに、学部の授業科目や実習指導の軽減を図る等の措置により、大学院担当教員の負担が過重にならないように配慮する。</p>

7. 研究倫理審査体制について、学内者のみで構成されており中立性の観点から疑義があることから、適切に改めることが望ましい。

(対応)

研究倫理審査体制については、中立性の確保の観点から、委員会の構成メンバーは本学に所属しない者2名以上を含む学長が委嘱した者で構成することし、「設置の趣旨等を記載した書類」を次のとおり修正した。

(7) 研究の倫理審査体制

本学では、学術研究の信頼性と公正性を確保することを目的とし、研究を遂行する上で求められる研究者の行動・態度の倫理的規準を帝京科学大学研究倫理規準に定めている【資料12：帝京科学大学研究倫理規準】。また人を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集・採取して行われる研究を遂行する上で求められる研究者の行動、態度の倫理的規準及び研究計画の審査に関する事項を「帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準」で定めている【資料13：帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準】。人を対象とする研究に規定する研究計画等の審査をするため、倫理審査委員会を設置し、委員会の構成メンバーは本学に所属しない者2名以上を含む学長が委嘱した次の者で構成されている。

- (1) 医学、医療の専門家等、自然科学の有識者 若干名
- (2) 倫理学、法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者 若干名
- (3) 研究対象者の観点も含めて一般の立場から意見を述べることのできる者 若干名

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (15ページ)

新	旧
<p>(7) 研究の倫理審査体制</p> <p>本学では、学術研究の信頼性と公正性を確保することを目的とし、研究を遂行する上で求められる研究者の行動・態度の倫理的規準を帝京科学大学研究倫理規準に定めている【資料12：帝京科学大学研究倫理規準】。また人を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集・採取して行われる研究を遂行する上で求められる研究者の行動、態度の倫理的規準及び研究計画の審査に関する事項を「帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準」で定めている【資料13：帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準】。人を対象とする研究に規定する研究計画等の審査をするため、倫理審査委員会を設置し、委員会の構成メンバーは本学に所属しない者2名以上を含む学長が委嘱した次の者で構成されている。</p> <p>(1) 医学、医療の専門家等、自然科学の有識者 若干名</p> <p>(2) 倫理学、法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者 若干名</p> <p>(3) 研究対象者の観点も含めて一般の立場から意見を述べることのできる者 若干名</p>	<p>(7) 研究の倫理審査体制</p> <p>本学では、学術研究の信頼性と公正性を確保することを目的とし、研究を遂行する上で求められる研究者の行動・態度の倫理的規準を帝京科学大学研究倫理規準に定めている【資料12：帝京科学大学研究倫理規準】。また人を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集・採取して行われる研究を遂行する上で求められる研究者の行動、態度の倫理的規準及び研究計画の審査に関する事項を「帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準」で定めている【資料13：帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準】。帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準第9条に規定する研究計画等の審査をするため、倫理審査委員会を設置し、委員会の構成メンバーは学長が委嘱した次の者で構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療科学部長 ・ 医学教育センター長 ・ 生命環境学部の教員2名 ・ 医療科学部の教員2名 ・ 「人を対象とする研究」に携わらない専任教員1名 ・ 総務課長

(改善事項) 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 (D)

8. 研究指導の実施に当たっては、教育体制の充実、ハラスメント対策等の観点から複数指導体制が確保されることが望ましいことから、その実施について検討すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、研究指導に当たっては、研究指導教員と研究指導補助教員の複数指導体制とし、「設置の趣旨等を記載した書類」を修正した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (1 2 ページ)

新	旧
5 教育方法、履修指導、研究指導方法及び修了要件 (1) 教育方法 1) 研究指導教員及び研究指導補助教員による対話形式の指導を行い、学生の自発的学習、課題発見、解決模索の態度を重視し促す。	5 教育方法、履修指導、研究指導方法及び修了要件 (1) 教育方法 1) マン・ツー・マンで対話形式の指導を行い、学生の自発的学習、課題発見、解決模索の態度を重視し促す。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (1 4 ページ)

新	旧
2) 学位論文の指導体制、指導プロセス 博士課程学生の研究及び授業科目の履修を指導するために、研究課題から学生ごとに研究指導教員と研究指導補助教員を研究科委員会の議を経て選出する。	2) 学位論文の指導体制、指導プロセス 博士課程学生の研究及び授業科目の履修を指導するために、研究課題から学生ごとに指導教員を研究科委員会の議を経て選出する。

9. 専任教員数について、大学院設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、次の2名の教員を新たに特別研究Ⅰ・Ⅱの授業科目を担当し、研究指導教員として専任教員資格審査を受ける。

職位	氏名	新	旧
教授	ミヤキ ジュンコ 宮城 純子	特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ	(追加)
准教授	クサガ(ワタヘ)トシエ 楠永(渡邊) 敏恵	特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ	(追加)

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (11ページ)

新	旧
<p>4 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>専任教員は医師、理学療法士、看護師の医療資格を有する者、社会科学、身体構造学、保健行動科学、<u>医療社会学</u>のスペシャリストを加えた合計14名で構成される。</p> <p>専任教員の学位については、医師教員3名が博士(医学)取得者で、理学療法士教員4名のうち博士(医学)1名、博士(保健学)1名、博士(保健医療学)1名、修士(文学)1名、社会科学系教員は博士(学術・福祉)、身体構造学教員は博士(理学)、保健行動学教員は博士(医学)、看護師教員は博士(医学)2名と修士(保健医療学)、<u>医療社会学</u>の教員は博士(保健学)を取得しており、科目内容の充実を図っている。.....</p> <p>教員の年齢構成に関しては、開設時で70歳代が1名、60歳代6名、50歳代6名、40歳代1名で配置され、平均年齢は<u>60.1</u>歳である。</p>	<p>4 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>専任教員は医師、理学療法士、看護師の医療資格を有する者、社会科学、身体構造学、保健行動科学のスペシャリストを加えた合計12名で構成される。</p> <p>専任教員の学位については、医師教員3名が博士(医学)取得者で、理学療法士教員4名のうち博士(医学)1名、博士(保健学)1名、博士(保健医療学)1名、修士(文学)1名、社会科学系教員は博士(学術・福祉)、身体構造学教員は博士(理学)、保健行動学教員は博士(医学)、看護師教員は博士(医学)と修士(保健医療学)を取得しており、科目内容の充実を図っている。.....</p> <p>教員の年齢構成に関しては、開設時で70歳代が1名、60歳代6名、50歳代4名、40歳代1名で配置され、平均年齢は61.1歳である。</p>

10. 教員の年齢構成が著しく高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にするとともに、教員配置の適正化を図ること。

(対応)

審査意見を踏まえ、教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、60歳未満の教員を原則として採用する旨を「設置の趣旨等を記載した書類」に追記するとともに、定年退職者の採用計画を別紙4のとおり修正した。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

・・・・・・・・

教員の年齢構成に関しては、完成年度末時で60歳代6名、50歳代7名で配置されており、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。また、本学規程（学校法人帝京科学大学教職員定年規程第2条）により【資料4：学校法人帝京科学大学教職員定年規程】、65歳を超えている教員の任用は第1回の卒業生を出す年までであり、完成年度末をもって退職する教員は4名である。本教員の退職後については、教育研究に支障のないように同等の実績を持つ教員を原則として公募により採用する予定である。また、教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、60歳未満の教員を原則として採用する予定である。【資料5：定年退職者の採用計画（専任教員）】。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (11ページ)

新	旧
<p>5 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>・・・・・・・・</p> <p>教員の年齢構成に関しては、完成年度末時で60歳代6名、50歳代7名で配置されており、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。また、本学規程（学校法人帝京科学大学教職員定年規程第2条）により【資料4：学校法人帝京科学大学教職員定年規程】、65歳を超えている教員の任用は第1回の卒業生を出す年までであり、完成年度末をもって退職する教員は4名である。本教員の退職後については、教育研究に支障のないように同等の実績を持つ教員を原則として公募により採用する予定である。また、<u>教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、60歳未満の教員を原則として採用する予定である。【資料5：定年退職者の採用計画（専任教員）】。</u></p>	<p>5 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>・・・・・・・・</p> <p>教員の年齢構成に関しては、完成年度末時で60歳代6名、50歳代7名で配置されており、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。また、本学規程（学校法人帝京科学大学教職員定年規程第2条）により【資料4：学校法人帝京科学大学教職員定年規程】、65歳を超えている教員の任用は第1回の卒業生を出す年までであり、完成年度末をもって退職する教員は4名である。本教員の退職後については、教育研究に支障のないように同等の実績を持つ教員を原則として公募により採用する予定である。</p>

11. 専攻の管理運営に関して、専攻主任の位置付けが不明瞭であることから、明らかにされることを望ましい。

(対応)

審査意見を踏まえ、専攻主任の位置付けを「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり明記した。

(2) 大学院教育及び研究に関する小委員会 (小委員会)

研究科委員会 (教授会) とは別に、「帝京科学大学大学院研究科委員会規程」に則り【資料13：帝京科学大学大学院研究科委員会規程】、大学院研究科の運営上必要があるときは大学院教育及び研究に関する小委員会 (小委員会) をおくことができる。小委員会の構成員は、学長補佐、専攻主任、研究科教員であり、審議事項は、研究科の研究・教育及び教務に関すること、大学院の学位審査に関すること、研究科担当教員の選考基準及び資格審査に関すること、その他研究科に関する事項である。専攻主任は、修士課程の各専攻及び博士課程の各専攻又は各領域におき、専攻又は領域の管理運営を行う。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (23ページ)

新	旧
<p>(2) 大学院教育及び研究に関する小委員会 (小委員会) 研究科委員会 (教授会) とは別に、「帝京科学大学大学院研究科委員会規程」に則り【資料13：帝京科学大学大学院研究科委員会規程】、大学院研究科の運営上必要があるときは大学院教育及び研究に関する小委員会 (小委員会) をおくことができる。 小委員会の構成員は、学長補佐、専攻主任、研究科教員であり、審議事項は、研究科の研究・教育及び教務に関すること、大学院の学位審査に関すること、研究科担当教員の選考基準及び資格審査に関すること、その他研究科に関する事項である。<u>専攻主任は、修士課程の各専攻及び博士課程の各専攻又は各領域におき、専攻又は領域の管理運営を行う。</u></p>	<p>(2) 大学院教育及び研究に関する小委員会 (小委員会) 研究科委員会 (教授会) とは別に、「帝京科学大学大学院研究科委員会規程」に則り【資料13：帝京科学大学大学院研究科委員会規程】、大学院研究科の運営上必要があるときは大学院教育及び研究に関する小委員会 (小委員会) をおくことができる。 小委員会の構成員は、学長補佐、専攻主任、研究科教員であり、審議事項は、研究科の研究・教育及び教務に関すること、大学院の学位審査に関すること、研究科担当教員の選考基準及び資格審査に関すること、その他研究科に関する事項である。</p>

シラバス（授業計画） 目次

1. 総合リハビリテーション学研究倫理特講
2. 総合リハビリテーション学研究法特講
3. 総合リハビリテーション学特講Ⅰ
4. 総合リハビリテーション学特講Ⅱ
5. 総合リハビリテーション学特講Ⅲ
6. 特別研究指導Ⅰ
7. 特別研究指導Ⅱ
8. 特別研究指導Ⅲ

科目名	総合リハビリテーション学研究倫理特講
英語名	Special Project in Research ethics of Comprehensive Rehabilitation
学期	1年前期
単位数	1
【担当教員】	宮下 智／廣瀬 昇
【授業概要】	本講義では、論文作成・発表、共同研究等の研究活動を遂行するうえで、予め知っておくべき研究倫理と生命倫理の遵守事項を修得するために、研究計画のあり方から知的財産権、被験者保護等の基本的事項をはじめ、利益相反、更には研究ノートとデータ管理、倫理審査過程などに関する事項について、オムニバス形式の講義を通じて学修を深める。
【到達目標】	生活者の視点から多角的かつ複合的なアプローチを駆使しうる視野を伴う総合的(包括的)リハビリテーション研究では、講義での学びをもとに高い倫理観を持ちながら研究を遂行することが求められる。そのため、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 1. 問題意識を深め、適正な研究活動の推進し研究課題を設定することができる。 2. 研究課題を採求するための研究倫理上、適切な研究方法を採用し、研究計画を作成できる。
【計画・内容】	予習: 適宜配布される資料を次回までに熟読する。 復習: 毎回の授業における議論を通じて、追加・訂正された内容がある場合にはそれを整理する。 1)リハビリテーションに関連する研究計画の在り方 担当:宮下 2)研究における知的財産権 担当:宮下 3)被験者保護 担当:宮下 4)研究ノートの作成方法と管理 担当:廣瀬 5)研究データの取り扱い 担当:廣瀬 6)倫理審査過程と倫理申請に関する手段 担当:廣瀬 7)医療における医学的検査・診断に関するガイドライン 担当:廣瀬 8)まとめ 担当:宮下
【教科書・参考書】	特に定めない。講義内容に関連した資料を配布する。
【成績評価方法】	成績評価基準は、到達目標に記載した内容の理解度によるものとし、中間課題(30%)、期末試験(70%)を総合して評定する。
【備考】	

科目名	総合リハビリテーション学研究法特講
英語名	Special Project in Research Method of Comprehensive Rehabilitation
学期	1年前期
単位数	1
【担当教員】	潮見 泰藏／山田 健
【授業概要】	リハビリテーション科学分野は多種多様なニーズが含まれ、疾病予防、健康増進、自立生活支援を見据えた基礎的・応用的な幅広い研究領域が求められる。そのため、本講義ではリハビリテーション科学に関連する種々の研究手法や意義を十分に理解し、研究計画の立案から論文の作成過程、公開までの一連の流れについて深く学修する。とくに、心身機能に対するリハビリテーション、また、地域・社会的リハビリテーション研究に必要な研究手法に対する知識・技術(研究目的・対象、統計手法、研究公開など)の学修を深める。
【到達目標】	講義での学びをもとに研究を遂行し、心身機能に対するリハビリテーション、地域・社会的リハビリテーションの領域を網羅した研究に発展させる能力を獲得すること、すなわち、高い洞察力と課題解決能力を習得することを目的とする。そのため、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 1. 広い地域社会の多様な要請に応える課題意識を深め、総合リハビリテーション学領域として、具体的な研究課題を設定できる。 2. 心身機能に対するリハビリテーション、地域・社会的リハビリテーション研究に関連する研究手法に対する知識・技術として、研究目的・計画、統計手法、研究公開などを立案できる。
【計画・内容】	予習: 適宜配布される資料を次回までに熟読する。 復習: 毎回の授業における議論を通じて、追加・訂正された内容がある場合にはそれを整理する。 1) 総合リハビリテーションにおける研究法とは 担当: 潮見 2) 心身機能に対するリハビリテーション研究およびその応用 担当: 潮見 3) 心身機能に対するリハビリテーション研究課題の設定と計画、立案 担当: 潮見 4) 心身機能に対するリハビリテーション研究の論文作成と研究公開 担当: 潮見 5) 地域・社会的リハビリテーション研究およびその応用 担当: 山田 6) 地域・社会的リハビリテーション研究課題の設定と計画、立案 担当: 山田 7) 地域・社会的リハビリテーション研究の論文作成と研究公開 担当: 山田 8) まとめ 担当: 山田
【教科書・参考書】	特に定めない。講義内容に関連した資料を配布する。
【成績評価方法】	成績評価基準は、到達目標に記載した内容の理解度によるものとし、中間課題(30%)、期末試験(70%)を総合して評定する。
【備考】	

科目名	総合リハビリテーション学特講 I
英語名	Special Project in Comprehensive Rehabilitation I
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	高田 雄三／眞先 敏弘／萩原 宏毅／鈴木 幹夫
【授業概要】	本講義では、身体構造学・神経再生学・神経障害学・社会病理学などの医学的リハビリテーションの応用基礎を中心として、医学的リハビリテーションの視点から同分野が抱える主な疾病の病態発現と制御、心身機能の代償機能の機序などに関連する現象を科学的に捉える。とくに、各分野に関連する教員によるオムニバス形式の講義を通じて学修を深める。
【到達目標】	講義、演習での学びをもとに研究を遂行し、医学的リハビリテーション分野における知識、技術を発展させる基本的能力を獲得すること、すなわち課題発見能力と課題解決能力を獲得することを目的とする。そのため、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 1. 問題意識を深め、具体的な研究課題を設定できる。 2. 研究課題を探求するための適切な研究方法を採用及び倫理的な研究計画を作成できる。
【計画・内容】	予習: 適宜配布される資料を次回までに熟読する。 復習: 毎回の授業における議論を通じて、追加・訂正された内容がある場合にはそれを整理する。 1) 総合リハビリテーション学における医学的リハビリテーションの応用基礎 担当: 高田 2) 人体構造を形態学的解析する各種手法 担当: 高田 3) 分子解剖学の臨床疾患の病態解明 担当: 高田 4) 抗酸化ストレス関連遺伝子による生活習慣病の分子病態解析予防医学的研究 担当: 高田 5) 神経内科領域の再生医療(1) 担当: 眞先 6) 神経内科領域の再生医療(2) 担当: 眞先 7) 神経内科分野での幹細胞移植治療(1) 担当: 眞先 8) 神経内科分野での幹細胞移植治療(2) 担当: 眞先 9) 運動と骨格筋 担当: 萩原 10) 運動と代謝、脳機能 担当: 萩原 11) 運動制御の神経機構 担当: 萩原 12) 様々な社会病理現象の理解(1) 担当: 鈴木 13) 様々な社会病理現象の理解(2) 担当: 鈴木 14) 人間洞察を目指す精神医学臨床 担当: 鈴木 15) まとめ 担当: 高田
【教科書・参考書】	特に定めない。講義内容に関連した資料を配布する。
【成績評価方法】	成績評価基準は、到達目標に示す医学的リハビリテーション分野における応用基礎に関する理解度を、中間課題(30%)、期末試験(70%)を総合して評定する。
【備考】	

科目名	総合リハビリテーション学特講Ⅱ
英語名	Special Project in Comprehensive RehabilitationⅡ
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	潮見 泰藏／宮下 智／橋本 伸也／廣瀬 昇
【授業概要】	本講義では、神経発達機能学・運動動作機能学・呼吸循環機能学・地域リハビリテーション学などの医学的リハビリテーション分野を中心として、疾患が起因する身体機能障害に対する病態理解、臨床的評価方法、障害予防・改善方法に関わる研究と教育を捉える。とくに、心身機能のリハビリテーションに関連する教員によるオムニバス形式の講義を通じて学修を深める。
【到達目標】	講義、演習での学びをもとに研究を遂行し、医学的リハビリテーション分野における知識、技術を発展させる基本的能力を獲得すること、すなわち課題発見能力と課題解決能力を獲得することを目的とする。そのため、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 1. 問題意識を深め、具体的な研究課題を設定できる。 2. 研究課題を探求するための適切な研究方法を採用及び倫理的な研究計画を作成できる。
【計画・内容】	予習：適宜配布される資料を次回までに熟読する。 復習：毎回の授業における議論を通じて、追加・訂正された内容がある場合にはそれを整理する。 1) 総合リハビリテーション学における医学的リハビリテーション 担当：潮見 2) 神経・発達機能解析学に関する知識と技術(1) 担当：潮見 3) 神経・発達機能解析学に関する知識と技術(2) 担当：潮見 4) リハビリテーション科学領域における身体運動・動作解析 担当：潮見 5) 運動機能解析研究における方法論 担当：宮下 6) 運動機能解析研究の実際(1) 担当：宮下 7) 運動機能解析研究の実際(2) 担当：宮下 8) 呼吸循環機能学に関連する基礎研究 担当：廣瀬 9) 呼吸循環機能学に関連する臨床評価指標 担当：廣瀬 10) 呼吸循環機能学に関連する解析方法 担当：廣瀬 11) 地域リハビリテーションにおける各種制度の現状 担当：橋本 12) 地域リハビリテーションにおける各種サービスの実践 担当：橋本 13) 地域リハビリテーションにおける各種システムの実践 担当：橋本 14) 地域リハビリテーションにおける研究・解析法 担当：橋本 15) まとめ 担当：潮見
【教科書・参考書】	特に定めない。講義内容に関連した資料を配布する。
【成績評価方法】	成績評価基準は、到達目標に示す医学的リハビリテーション分野における知識、技術の発展に関する理解度を、中間課題(30%)、期末試験(70%)を総合して評定する。
【備考】	

科目名	総合リハビリテーション学特講Ⅲ
英語名	Special Project in Rehabilitation SciencesⅢ
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	山田 健／泉 キヨ子／津田 彰／吉岡 幸子
【授業概要】	本講義では、高齢者リハビリテーション学・高齢者ケア学・地域生活支援学・健康心理学などの社会的リハビリテーション分野を中心として、実社会が示す身体機能と関連付け、自立生活を支援するために、地域の現状、生活者分析や転倒予防、高齢者支援、健康心理や行動などに関する研究を捉える。とくに、各分野に関連する教員によるオムニバス形式の講義を通じて学修を深める。
【到達目標】	講義、演習での学びをもとに研究を遂行し、医学的リハビリテーション分野における知識、技術を発展させる基本的能力を獲得すること、すなわち課題発見能力と課題解決能力を獲得することを目的とする。そのため、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 1. 問題意識を深め、具体的な研究課題を設定できる。 2. 研究課題を探求するための適切な研究方法を採用及び倫理的な研究計画を作成できる。
【計画・内容】	予習：適宜配布される資料を次回までに熟読する。 復習：毎回の授業における議論を通じて、追加・訂正された内容がある場合にはそれを整理する。 1) 総合リハビリテーション学における社会的リハビリテーション 担当：山田 2) 超高齢化する日常生活圏域の実態 担当：山田 3) セーフティネット構築方法論(1) 担当：山田 4) セーフティネット構築方法論(2) 担当：山田 5) 生活者に対する健康課題に対する予防対策と介入 担当：吉岡 6) 健康課題に向けた多角的な自立支援アプローチ(1) 担当：吉岡 7) 健康課題に向けた多角的な自立支援アプローチ(2) 担当：吉岡 8) QOLやウェルビーイングの理念 担当：津田 9) 科学的根拠に基づいた健康支援の方略 担当：津田 10) 健康支援の実践(1) 担当：津田 11) 健康支援の実践(2) 担当：津田 12) 高齢者リハビリテーションケアに関する課題 担当：泉 13) 高齢者の転倒・骨折予防(1) 担当：泉 14) 高齢者の転倒・骨折予防(2) 担当：泉 15) まとめ 担当：山田
【教科書・参考書】	特に定めない。講義内容に関連した資料を配布する。
【成績評価方法】	成績評価基準は、到達目標に示す社会的リハビリテーション分野における知識、技術の発展に関する理解度に関して、中間課題(30%)、期末試験(70%)を総合して評定する。
【備考】	

科目名	特別研究指導 I
英語名	Advanced Research for Doctoral Course I
学期	1年通年
単位数	4
【担当教員】	泉 キヨ子／津田 彰／吉岡 幸子／潮見 泰藏／鈴木 幹夫／山田 健／眞先 敏弘／ 萩原 宏毅／高田 雄三／宮城 純子／廣瀬 昇／楠永 敏恵
【授業概要】	各指導教員の研究テーマに沿って研究活動を行うことにより、高度な専門知識を獲得するとともに、研究課題の設定、研究計画の立案、実験・調査・解析の遂行、考察、論文の作成といった一連の研究活動を推進できる能力を養う。 特別研究指導 I では、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、および研究計画発表等を行い、論文執筆のための基盤となる能力を養う。
【到達目標】	講義、演習での学びをもとに研究を遂行し、医学的リハビリテーション分野における知識、技術を発展させる基本的能力を獲得すること、すなわち課題発見能力と課題解決能力を獲得することを目的とする。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 1. 問題意識を深め、具体的な研究課題を設定できる。 2. 研究課題を探求するための適切な研究方法を採用及び倫理的な研究計画を作成できる。
【計画・内容】	特に以下の点に関して、各自の研究に関連する発表を行い、教員や他の受講生と討議を行う。 1. 研究の意図と研究課題の決定 2. 研究計画の立案 3. 研究計画書の作成の指導 4. データ収集・分析の討議 5. 研究計画発表会における発表に向けての指導
【教科書・参考書】	必要に応じ、適宜提示する。
【成績評価方法】	成績評価は、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、および研究計画発表等の課題遂行状況(30%)と研究計画発表会における発表内容(70%)を総合して評定する。
【備考】	

科目名	特別研究指導Ⅱ
英語名	Advanced Research for Doctoral Course Ⅱ
学期	2年通年
単位数	4
【担当教員】	泉 キヨ子／津田 彰／吉岡 幸子／潮見 泰藏／鈴木 幹夫／山田 健／眞先 敏弘／ 萩原 宏毅／高田 雄三／宮城 純子／廣瀬 昇／楠永 敏恵
【授業概要】	各指導教員の研究テーマに沿って研究活動を行うことにより、高度な専門知識を獲得するとともに、研究課題の設定、研究計画の立案、実験・調査・解析の遂行、考察、論文の作成といった一連の研究活動を推進できる能力を養う。 特別研究指導Ⅱでは、引き続き研究計画に基づき、データ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、および中間報告会発表等を行い、博士論文を作成するために自らの研究をより発展・深化させる。
【到達目標】	講義、演習での学びをもとに研究を遂行し、医学的リハビリテーション分野における知識、技術を発展させる基本的能力を獲得すること、すなわち課題発見能力と課題解決能力を獲得することを目的とする。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 1. 問題意識を深め、具体的な研究課題を設定できる。 2. 研究課題を探求するための適切な研究方法を採用及び倫理的な研究計画を作成できる。
【計画・内容】	特に以下の点に関して、各自の研究に関連する発表を行い、教員や他の受講生と討議を行う。 1. 研究のプレゼンテーション計画作成 2. 博士論文中間発表会に向けての指導 3. 博士論文の提出に向けての指導 4. 審査委員会による審査と指導 5. 博士論文(最終提出)に向けての指導
【教科書・参考書】	必要に応じ、適宜提示する。
【成績評価方法】	成績評価は、研究計画に基づき、データ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、および中間報告会発表等の課題遂行状況(30%)と研究計画発表会における発表内容(70%)を総合して評定する。
【備考】	

科目名	特別研究指導Ⅲ
英語名	Advanced Research for Doctoral Course Ⅲ
学期	3年通年
単位数	4
【担当教員】	泉 キヨ子／津田 彰／吉岡 幸子／潮見 泰藏／鈴木 幹夫／山田 健／眞先 敏弘／ 萩原 宏毅／高田 雄三／宮城 純子／廣瀬 昇／楠永 敏恵
【授業概要】	各指導教員の研究テーマに沿って研究活動を行うことにより、高度な専門知識を獲得するとともに、研究課題の設定、研究計画の立案、実験・調査・解析の遂行、考察、論文の作成といった一連の研究活動を推進できる能力を養う。 特別研究指導Ⅲでは、特別研究指導Ⅰ・Ⅱで進めてきた研究を博士論文という研究成果として結実させることを目標とし、査読対応、博士論文の作成・提出、および最終発表会を行う。
【到達目標】	講義、演習での学びをもとに研究を遂行し、医学的リハビリテーション分野における知識、技術を発展させる基本的能力を獲得すること、すなわち課題発見能力と課題解決能力を獲得することを目的とする。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 1. 問題意識を深め、具体的な研究課題を設定できる。 2. 研究課題を探求するための適切な研究方法を採用及び倫理的な研究計画を作成できる。
【計画・内容】	特に以下の点に関して、各自の研究に関連する発表を行い、教員や他の受講生と討議を行う。 1. 研究のプレゼンテーション計画作成 2. 博士論文最終発表会に向けての指導 3. 博士論文の提出に向けての指導 4. 審査委員会による審査と指導 5. 博士論文(最終提出)に向けての指導 6. 博士論文の公表
【教科書・参考書】	必要に応じ、適宜提示する。
【成績評価方法】	成績評価は、特別研究指導Ⅰ・Ⅱで進めてきた研究を博士論文という研究成果として結実させることを目標とし、査読対応、博士論文の作成・提出状況(30%)と最終発表会の発表内容(70%)を総合して評定する。
【備考】	

前期 授業時間割表 (千住キャンパス 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 博士課程 1年)

時間	月曜日			火曜日			水曜日			木曜日			金曜日			土曜日			
	授業科目名	教室名	担当教員名	授業科目名	教室名	担当教員名	授業科目名	教室名	担当教員名	授業科目名	教室名	担当教員名	授業科目名	教室名	担当教員名	授業科目名	教室名	担当教員名	
1時限																			
2時限																			
3時限																			
4時限																			
5時限																			
6時限				総合リハビリテーション学特講 I	大学院研究室2	高田、眞先、萩原、鈴木													
7時限																			

授業時間

時限	授業時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30
7時限	19:40～21:10

備考

- ①. [] の授業科目は必修科目です。
- ②. 担当教員の○印は、非常勤講師です。

後期 授業時間割表 (千住キャンパス 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 博士課程 1年)

<後期> 千住キャンパス 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 博士課程 1年

時間	月曜日			火曜日			水曜日			木曜日			金曜日			土曜日		
	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名
1 時限																特別研究指導 I	張、藤田、百間、 澤見、新木、山 田、岡本、萩原、 藤田、田坂、廣 瀬、柳次	各研究室
2 時限																		
3 時限																		
4 時限																		
5 時限																		
6 時限																		
7 時限																		

授業時間

時限	授業時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30
7時限	19:40～21:10

備考

- ①. の授業科目は必修科目です。
- ②. 担当教員の○印は、非常勤講師です。

前期 授業時間割表 (千住キャンパス 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 博士課程 2年)

時間	月曜日			水曜日			木曜日			金曜日			土曜日		
	授業科目名	教室名	担当教員名	授業科目名	教室名	担当教員名	授業科目名	教室名	担当教員名	授業科目名	教室名	担当教員名	授業科目名	教室名	担当教員名
1時限													特別研究指導Ⅱ		張、藤田、吉岡、潮見、鈴木、山田、藤先、萩原、藤田、高橋、廣瀬、柳水
2時限															
3時限															
4時限															
5時限															
6時限			総合リハビリテーション学特講Ⅰ	大学院研究室2	高田、眞先、萩原、鈴木		総合リハビリテーション学研究倫理特講	大学院研究室2	宮下、廣瀬	総合リハビリテーション学特講Ⅱ	大学院研究室2	潮見、宮下、橋本、廣瀬	総合リハビリテーション学特講Ⅲ	大学院研究室2	山田、泉、津田、吉岡
7時限							総合リハビリテーション学研究法特講	大学院研究室2	潮見、山田						

授業時間

時限	授業時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30
7時限	19:40～21:10

備考

- ①. ■ の授業科目は必修科目です。
- ②. 担当教員の○印は、非常勤講師です。

後期 授業時間割表 (千住キャンパス 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 博士課程 2年)

時間	月曜日			火曜日			水曜日			木曜日			金曜日			土曜日			
	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	
1 時限																			
2 時限																			
3 時限																			
4 時限																			
5 時限																			
6 時限																			
7 時限																			

授業時間

時限	授業時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30
7時限	19:40～21:10

備考

- ①. の授業科目は必修科目です。
- ②. 担当教員の○印は、非常勤講師です。

前期 授業時間割表 (千住キャンパス 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 博士課程 3年)
 <前期> 千住キャンパス 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 博士課程 3年

時 限	月曜日			火曜日			水曜日			木曜日			金曜日			土曜日			
	授業 科目 名	担当 教員 名	教室 名	授業 科目 名	担当 教員 名	教室 名	授業 科目 名	担当 教員 名	教室 名	授業 科目 名	担当 教員 名	教室 名	授業 科目 名	担当 教員 名	教室 名	授業 科目 名	担当 教員 名	教室 名	
1時 限																特別研究指導Ⅲ	張、藤田、吉岡、 澤見、鈴木、山 田、藤元、萩原、 藤田、田坂、廣 瀬、柳水		
2時 限																			
3時 限																			
4時 限																			
5時 限																			
6時 限																			
7時 限																			

授業時間

時限	授業時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30
7時限	19:40～21:10

備考

- ①. ■ の授業科目は必修科目です。
- ②. 担当教員の○印は、非常勤講師です。

後期 授業時間割表 (千住キャンパス 医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻 博士課程 3年)

時 限	月曜日			水曜日			木曜日			金曜日			土曜日		
	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 名
1時 限															特別研究指導Ⅲ
2時 限															
3時 限															
4時 限															
5時 限															
6時 限															
7時 限															

授業時間

時限	授業時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30
7時限	19:40～21:10

備考

- ①. の授業科目は必修科目です。
- ②. 担当教員の○印は、非常勤講師です。

No	所属学科等	職位	教員氏名	学部/修士/博士	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分				
1	看護学科	教授	泉 キヨ子	学部	前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00	集中講義				
					前期	看護理論	木	1	1.00					
					前期	リハビリテーション看護	金	3	0.20	オムニバス				
					前期	統合実習	—	—	1.60	集中講義				
					前期	老年看護学実習Ⅰ	—	—	2.40	集中講義				
					前期	老年看護学実習Ⅱ	—	—	1.20					
					後期	看護研究Ⅰ	月	1	0.07	オムニバス				
					後期	看護研究Ⅰ	月	2	0.07	オムニバス				
					後期	老年看護学概論	月	4	0.47	オムニバス				
					後期	看護研究Ⅱ	火	3	1.00					
					後期	看護研究Ⅰ	木	1	0.07	オムニバス				
					後期	看護研究Ⅰ	木	2	0.07	オムニバス				
					後期	看護学概論Ⅰ	金	1	0.20	オムニバス				
					後期	看護研究Ⅰ	金	1	0.07	オムニバス				
					後期	看護研究Ⅰ	金	2	0.07	オムニバス				
					後期	老年看護援助論Ⅱ-1	金	2	0.13	オムニバス				
				後期	老年看護援助論Ⅱ-2	金	2	0.87	オムニバス					
				後期	老年看護学実習Ⅰ【新カリ】	—	—	0.80	集中講義 オムニバス					
				後期	老年看護学実習Ⅱ	—	—	1.20	集中講義					
				修士	前期	高齢者リハビリテーションケア特論	木	6	1.00					
					前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	土	2	0.07	オムニバス				
					後期	高齢者リハビリテーションケア演習	木	6	1.00					
					通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
				博士	通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
					前期	総合リハビリテーション学特講Ⅲ	金	6	0.20	オムニバス				
					通年	特別研究指導Ⅰ	土	1	1.00					
					通年	特別研究指導Ⅱ	土	1	1.00					
				通年	特別研究指導Ⅲ	土	1	1.00						
				コマ数集計(学部・修士・博士総計)										
				前期:13.67コマ 後期:11.07コマ										
				【管理運営業務等】										
				教授会・・・1回/月、部局長会・・・2回/月、学科会議・・・1回/月 (所属委員会等) EMS環境安全委員会、教務・学生委員会、研究推進委員会、広報戦略委員会、個人情報保護委員会、自己点検・評価委員会、就職戦略委員会、入学試験委員会、人を対象とする研究に関する倫理審査委員会、ファカルティ・ディベロップメント委員会										
2	総合リハビリテーション学専攻	教授	津田 彰	修士	前期	健康心理学特論	水	7	1.00					
					後期	健康心理学演習	水	7	1.00					
				博士	前期	総合リハビリテーション学特講Ⅲ	金	6	0.27	オムニバス				
					通年	特別研究指導Ⅰ	土	1	1.00					
					通年	特別研究指導Ⅱ	土	1	1.00					
				通年	特別研究指導Ⅲ	土	1	1.00						
				コマ数集計(学部・修士・博士総計)										
前期:4.27コマ 後期:4.00コマ														
【管理運営業務等】														
教授会・・・1回/月、学科会議・・・1回/月 (所属委員会等) なし														
3	東京理学療法学科	教授	橋本 伸也	学部	前期	高齢者保健学	月	5	0.40	オムニバス				
					前期	日常生活活動実習	月	3.4	1.60					
					前期	地域・在宅の理学療法	水	2	1.00					
					前期	助言指導(1-4年)	—	—	—					
					前期	基礎ゼミ(東京理学)	火	4	1.00					
					前期	老年学	火	5	0.40	オムニバス				
					前期	QOL考察・ターミナルケア論/QOL考察論【医療福祉】	木	4	1.00					
					前期	疾病・障害の特性と心理	木	1	1.00					
					前期	疾病・障害の特性と心理	木	1	1.00					
					前期	疾病・障害の特性と心理	集	集	1.00					
					後期	助言指導(1-4年)	—	—	—					
					後期	疾患別理学療法演習Ⅲ	月	3.4	1.60					
					後期	日常生活活動学	火	2	0.53	オムニバス				
					後期	カウンセリング実践論	木	1.2	0.53	オムニバス				
					後期	医療福祉制度と法律(8回)	木	2	0.53	オムニバス				
					後期	疾患別理学療法演習Ⅱ	木	3.4	1.60					
				通年	理学療法特論	集	集	集						
				通年	特別セミナー	集	集	1.00						
				集中	総合実習Ⅰ	集	集	0.20	オムニバス					
				集中	総合実習Ⅱ	集	集	0.20	オムニバス					
				集中	評価実習	集	集	0.20	オムニバス					
				修士	前期	地域リハビリテーション学特論	月	7	1.00					
					前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	土	2	0.07	オムニバス				
					後期	地域リハビリテーション学演習	月	7	1.00					
					通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
				通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	土	3	1.00						
				博士	前期	総合リハビリテーション学特講Ⅱ	木	6	0.27	オムニバス				
				コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く										
				前期:12.73コマ 後期:8.80コマ										
【管理運営業務等】														
教授会・・・1回/月、学科会議・・・1回/月 (所属委員会等) 就職戦略委員会、図書館運営委員会														

No	所属学科等	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 博士	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分				
4	看護学科	教授	吉岡 幸子	学部	前期	公衆衛生看護方法論Ⅱ	月	3	0.07	オムニバス				
					前期	公衆衛生看護方法論Ⅲ	月	3	0.07	オムニバス				
					前期	公衆衛生看護概論	月	1	0.53	隔週偶数 オムニバス				
					前期	地域看護支援論Ⅲ	火	3.4	0.53	オムニバス				
					前期	地域看護支援論Ⅱ	水	1	0.53	オムニバス				
					前期	多職種連携(医療福祉学科)	木	5	0.07	オムニバス				
					前期	多職種連携	—	3.4,5	0.20	集中講義 オムニバス				
					前期	地域看護学実習	別途							
					前期	統合実習	別途			集中講義				
					前期	助言指導(3年生)	—	—	—					
					後期	多職種連携(作業療法学科)	火	2	0.07	オムニバス				
					後期	看護学概論(医療福祉学科)	—	—	0.07	オムニバス				
					後期	在宅看護学概論	火	4	0.07	オムニバス				
					後期	チーム医療実践論	水	3.4	0.53	オムニバス				
					後期	看護研究Ⅱ	木	1	1.00					
					後期	公衆衛生看護方法論Ⅰ	金	3	0.27	オムニバス				
					後期	公衆衛生看護方法論Ⅰ	金	4	0.13	オムニバス				
					後期	在宅看護学実習Ⅰ	別途			集中講義				
					後期	助言指導(3年生)	—	—	—					
					修士	前期	地域看護学特論	金	6	1.00				
				前期		地域生活支援看護学総論	土	5	0.33	オムニバス				
				後期		多職種連携特論	水	6	0.33	オムニバス				
				後期		地域看護学演習	金	7	1.00					
				通年		看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
				通年		看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
				博士		前期	総合リハビリテーション学特講Ⅲ	金	6	0.20	オムニバス			
						通年	特別研究指導Ⅰ	土	1	1.00				
					通年	特別研究指導Ⅱ	土	1	1.00					
					通年	特別研究指導Ⅲ	土	1	1.00					
				コマ数集計(学部・修士・博士総計)※実習除く										
				前期:8.53コマ 後期:8.47コマ										
				実習	実習日数					時期	単位	実習担 当人数	備考	
					7週	5週×1クール(保健師課程)				前期	5単位	3人		
						2週×1クール(統合実習)				9月	2単位	31人		
				管理運営業務等										
				教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) 入学試験委員会										
				5	東京理学療法学科	教授	潮見 泰藏	学部	前期	基礎ゼミ(東京理学)	火	4	1.00	
									前期	リハビリテーション概論	木	3	0.53	オムニバス
									前期	脳血管障害の理学療法	木	2	0.33	オムニバス
									前期	理学療法概論	木	4	0.53	オムニバス
前期	助言指導(1-4年)	—	—						—					
後期	疾患別理学療法演習Ⅲ	月	3.4						1.60					
後期	疾患別理学療法演習Ⅱ	木	3.4						1.60					
後期	助言指導(1-4年)	—	—						—					
通年	特別セミナー	集	集						1.00					
通年	理学療法特論	集	集						—					
集中	総合実習Ⅰ	集	集						0.20	オムニバス				
集中	総合実習Ⅱ	集	集						0.20	オムニバス				
集中	評価実習	水,集	4,集						0.20	オムニバス				
修士	前期	神経・発達機能解析学特論	金						6	1.00				
	前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅰ	土					1	0.47	オムニバス				
	前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	土					2	0.07	オムニバス				
	後期	神経・発達機能解析学演習	金					6	1.00					
	通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	土					3	1.00					
	通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	土					3	1.00					
博士	前期	総合リハビリテーション学研究法特講	水					7	0.27	オムニバス				
	後期	総合リハビリテーション学特講Ⅱ	木					6	0.33	オムニバス				
	通年	特別研究指導Ⅰ	土					1	1.00					
	通年	特別研究指導Ⅱ	土					1	1.00					
通年	特別研究指導Ⅲ	土	1					1.00						
コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く														
前期:9.20コマ 後期:9.53コマ														
【管理運営業務等】														
教授会…1回/月、部局長会…2回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) EMS環境安全委員会、教務・学生委員会、研究推進委員会、個人情報保護委員会、自己点検・評価委員会、就職戦略委員会、入学試験委員会														

No	所属学科等	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 博士	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分
6	作業療法学科	教授	鈴木 幹夫	学部	前期	QOL・ターミナルケア論	火	3	0.13	オムニバス
					前期	基礎ゼミ	金	5	0.07	オムニバス
					前期	疾病・障害の特性と心理	火	4	0.27	オムニバス
					前期	精神医学Ⅰ	火	2	1.00	
					前期	地域・在宅の作業療法応用	金	2	0.07	オムニバス
					後期	リハビリテーション特論	—	—	0.27	オムニバス
					後期	精神医学Ⅱ	火	2	1.00	
					後期	臨床心理学	水	2	0.53	オムニバス
				修士	前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	土	2	0.07	オムニバス
					後期	社会病理学特論	水	5	1.00	
					通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	土	3	1.00	
					通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	土	3	1.00	
				博士	前期	総合リハビリテーション学特講Ⅰ	火	6	0.20	オムニバス
					通年	特別研究指導Ⅰ	土	1	1.00	
					通年	特別研究指導Ⅱ	土	1	1.00	
					通年	特別研究指導Ⅲ	土	1	1.00	
				コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く						
前期:6.80コマ 後期:7.80コマ										
【管理運営業務等】										
教授会・・・1回/月、学科会議・・・1回/月 (所属委員会等) EMS内部監査委員会、紀要編集委員会、ハラスメント防止委員会、衛生委員会										
7	医療福祉学科	教授	山田 健	学部	前期	高齢化地域生活支援特論	火	4	1.00	
					前期	社会福祉調査	火	2	1.00	
					前期	相談援助実習指導Ⅱ	水	1	1.00	
					前期	アドバンス健康福祉科学セミナーⅠ	木	4	1.00	
					前期	地域連携	金	5	1.00	
					前期	健康福祉科学セミナーⅠb	金	4	1.00	
					前期	健康福祉科学セミナーⅡ	土	2	1.00	
					前期	相談援助実習	集中	—	—	
					前期	助言指導(1-4年)	—	—	—	
					後期	障害者福祉論	月	4	1.00	
					後期	生活環境学	月	5	1.00	
					後期	高齢化地域生活支援演習	火	4	1.00	
					後期	相談援助実習指導Ⅲ	水	2	1.00	
					後期	相談援助実習指導Ⅰ	木	3	1.00	
					後期	現代社会と福祉Ⅱ	木	2	1.00	
					後期	地域連携	金	5	1.00	
				後期	健康福祉科学セミナーⅠb	金	4	1.00		
				後期	健康福祉科学セミナーⅡ	土	1	1.00		
				後期	アドバンス健康福祉科学セミナーⅡ	—	—	—		
				修士	前期	高齢化地域生活支援特論	月	6	1.00	
					前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	土	2	0.07	オムニバス
					後期	高齢化地域生活支援演習	月	6	1.00	
					通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	土	3	1.00	
				博士	通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	土	3	1.00	
					前期	総合リハビリテーション学研究法特講	水	7	0.27	オムニバス
					前期	総合リハビリテーション学特講Ⅲ	金	6	0.33	オムニバス
					通年	特別研究指導Ⅰ	土	1	1.00	
					通年	特別研究指導Ⅱ	土	1	1.00	
				通年	特別研究指導Ⅲ	土	1	1.00		
コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く										
前期:13.67コマ 後期:15.00コマ										
【管理運営業務等】										
教授会・・・1回/月、学科会議・・・1回/月 (所属委員会等) なし										
8	医学教育センター	教授	眞先 敏弘	学部	前期	小児科学	火	4	0.80	オムニバス
					前期	病態治療学Ⅱ	火	3	0.80	オムニバス
					前期	神経内科学基礎	水	1	1.00	
					前期	生理学実習	月・金	4.5	1.07	
					後期	一般臨床医学Ⅱ	月	2	1.00	
					後期	神経内科学臨床	月	3	1.00	
					後期	臨床医学Ⅱ	月	1	1.00	
					後期	医学概論	金	3	0.53	オムニバス
				後期	介護病態学	金	2	0.27	オムニバス	
				修士	前期	臨床神経内科学特論	月	5	1.00	
					前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	土	2	0.07	オムニバス
					後期	生活習慣病治療学特論	月	5	1.00	
					通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	土	3	1.00	
				通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	土	3	1.00		
				博士	前期	総合リハビリテーション学特講Ⅰ	火	6	0.27	オムニバス
					通年	特別研究指導Ⅰ	土	1	1.00	
					通年	特別研究指導Ⅱ	土	1	1.00	
通年	特別研究指導Ⅲ	土	1		1.00					
コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く										
前期:10.00コマ 後期:9.80コマ										
【管理運営業務等】										
教授会・・・1回/月、学科会議・・・1回/月 (所属委員会等) ガイドブック部会、ニューズレター部会、人を対象とする研究に関する倫理審査委員会、利益相反委員会										

No	所属学科等	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 博士	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分				
9	医療福祉学科	教授	宮下 智	学部	前期	運動機能解析学特論	火	4	1.00					
					前期	リハビリテーション2	火	2	0.13	オムニバス				
					前期	基礎ゼミ	火	2	0.27	オムニバス				
					前期	基礎理学療法学	木	1	0.20	オムニバス				
					前期	スポーツトレーニング入門	木	2	0.27	オムニバス				
					前期	人体の構造と機能および疾病	木	3	1.00					
					前期	チーム医療実践論	金	2	0.87	オムニバス				
					前期	運動学	金	1	1.00					
					前期	助言指導(1-4年)	-	-	-					
					後期	運動機能解析学演習	火	1	0.07	オムニバス				
					後期	基礎理学療法学	木	1	0.33	オムニバス				
					後期	リハビリテーション論	木	5	1.00					
					後期	生活支援技術Ⅱ(移動)	木	3	1.00					
					後期	生活リハビリ運動法	金	2	1.00					
				後期	助言指導(1-4年)	-	-	-						
				修士	前期	運動機能解析学特論	火	6	1.00					
					前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅰ	土	1	0.20	オムニバス				
					前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	土	2	0.07	オムニバス				
					後期	運動機能解析学演習	火	6	1.00					
					通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
					通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
				博士	前期	総合リハビリテーション学研究倫理特講	水	6	0.27	オムニバス				
					後期	総合リハビリテーション学特講Ⅱ	木	6	0.20	オムニバス				
				コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く										
				前期:8.27コマ 後期:6.60コマ										
				【管理運営業務等】										
				教授会・・・1回/月、学科会議・・・1回/月 (所属委員会等) 紀要編集委員会										
10	理学療法学科	教授	萩原 宏毅	学部	前期	QOL・ターミナルケア論	火	3	0.20	オムニバス				
					前期	理学療法研究法	火	5	0.07	オムニバス				
					前期	疾病・障害の特性と心理	火	4	0.27	オムニバス				
					前期	内科学基礎	火	5	1.00					
					前期	老年学	火	2	0.27	オムニバス				
					前期	神経内科学基礎	水	5	1.00					
					前期	卒業研究	-	-	-	集中講義				
					後期	内科学臨床	火	4	1.00					
					後期	臨床医学総論	火	5	0.53	オムニバス				
					後期	神経内科学臨床	水	4	1.00					
				後期	臨床検査学・薬理学	水	1.2	0.13	オムニバス					
				後期	卒業研究	-	-	-	集中講義					
				博士	前期	総合リハビリテーション学特講Ⅰ	火	6	0.20	オムニバス				
					通年	特別研究指導Ⅰ	土	1	1.00					
					通年	特別研究指導Ⅱ	土	1	1.00					
					通年	特別研究指導Ⅲ	土	1	1.00					
				コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く										
前期:6.00コマ 後期:5.67コマ														
【管理運営業務等】														
教授会・・・1回/月、学科会議・・・1回/月 (所属委員会等) 遺伝子組換え実験安全委員会、動物委員会、衛生委員会														
11	医学教育センター	教授	高田 雄三	学部	前期	解剖学	月	2	1.00					
					前期	解剖学Ⅲ	火	1	1.00					
					前期	柔道整復学特別講座3	火	2	1.00					
					前期	機能構造学特論	水	5	1.00					
					前期	解剖学Ⅰ	木	1	1.00					
					前期	生体機能学Ⅰ	金	4	1.00					
					前期	生体機能学Ⅰ	金	5	1.00					
				修士	前期	機能構造学特論	水	6	1.00					
					前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	土	2	0.07	オムニバス				
					後期	機能構造学演習	水	6	1.00					
					通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
				博士	通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
					前期	総合リハビリテーション学特講Ⅰ	火	6	0.33	オムニバス				
					通年	特別研究指導Ⅰ	土	1	1.00					
					通年	特別研究指導Ⅱ	土	1	1.00					
				通年	特別研究指導Ⅲ	土	1	1.00						
				コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く										
前期:13.40コマ 後期:6.00コマ														
【管理運営業務等】														
教授会・・・1回/月、学科会議・・・1回/月 (所属委員会等) 人を対象とする研究に関する倫理審査委員会、ホームページ部会														

No	所属学科等	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 博士	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分				
①	看護学科	教授	宮城 純子	学部	前期	看護研究Ⅱ	火	2	1.00					
					前期	精神看護学概論	火	2	0.53	隔週偶数 オムニバス				
					前期	心とストレス	水	4	1.00	週間授業				
					前期	精神看護援助論Ⅱ	木	1	0.53	オムニバス				
					前期	精神看護学実習				集中講義				
					前期	統合実習				集中講義				
					前期	国家試験対策講義	—	—	0.13	オムニバス				
					前期	精神看護援助論Ⅱ(旧カリ)	—	—	1.00					
					前期	心とストレス(旧カリ)	—	—	1.00					
					前期	助言指導(2年)	—	—	—					
					後期	精神看護学実習				集中講義				
					後期	助言指導(2年)	—	—	—					
					後期	精神看護援助論Ⅰ	火	3	1.00					
					後期	看護研究Ⅱ	火	2	1.00					
					修士	前期	精神保健看護学特論	金	7	1.00				
				前期		看護学研究法特論Ⅱ	土	2	0.27	オムニバス				
				前期		地域生活支援看護学総論	土	5	0.20	オムニバス				
				後期		精神保健看護学演習	金	6	1.00					
				通年		看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
				通年		看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
				通年		特別研究指導Ⅰ	土	1	1.00					
				通年		特別研究指導Ⅱ	土	1	1.00					
				通年		特別研究指導Ⅲ	土	1	1.00					
				コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く										
				前期:11.67コマ 後期:8.00コマ										
				実習	実習日数					時期	単位	実習担 当人数	備考	
					8週	2週×3クール(精神看護学実習)				10月~2月	2単位	3人		
					2週×1クール(統合実習)				9月	2単位	31人			
				管理運営業務等										
				教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) ハラスメント防止委員会										
				12	東京理学療法学科	准教授	廣瀬 昇	学部	前期	理学療法研究法	月	1	0.33	オムニバス
									前期	運動療法実習	火	1.2	1.60	
									前期	基礎ゼミ(東京理学)	火	4	1.00	
前期	生理学Ⅲ(2組)	水	6						1.00					
前期	多職種連携論	水	3						0.07	オムニバス				
前期	基礎理学療法学	木	1						0.60	オムニバス				
前期	基礎理学療法学	木	5						0.60	オムニバス				
前期	助言指導(1-4年)	—	—						—	—				
後期	疾患別理学療法演習Ⅲ	月	3.4						1.60					
後期	運動療法学総論	木	2						0.40	オムニバス				
後期	疾患別理学療法演習Ⅱ	木	3.4						1.60					
後期	助言指導(1-4年)	—	—						—	—				
通年	特別セミナー	集	集						1.00					
通年	理学療法特論	集	集						集					
通年	運動学Ⅱ	水	5						2.00					
通年	内部障害(呼吸・循環・代謝)の理学療法	火、木	2.3					2.00						
集中	総合実習Ⅰ	集	—					0.20	オムニバス					
集中	総合実習Ⅱ	集	—					0.20	オムニバス					
集中	評価実習	水、集	4、集					0.20	オムニバス					
修士	前期	内部機能解析学特論	火					7	1.00					
	前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅰ	土					1	0.33	オムニバス				
	前期	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	土					2	0.07	オムニバス				
	後期	内部機能解析学演習	火					7	1.00					
	通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	土					3	1.00					
	通年	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	土					3	1.00					
	博士	前期	総合リハビリテーション学研究倫理特講					水	6	0.27	オムニバス			
後期		総合リハビリテーション学特講Ⅱ	木					6	0.20	オムニバス				
通年		特別研究指導Ⅰ	土					1	1.00					
通年		特別研究指導Ⅱ	土					1	1.00					
通年		特別研究指導Ⅲ	土					1	1.00					
コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く														
前期:15.87コマ 後期:13.80コマ														
(管理運営業務等)														
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) ファカルティ・ディベロップメント委員会、ホームページ部会、有害廃棄物処理委員会														

No	所属学科等	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 博士	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分					
②	医療福祉学科	准教授	楠永 敏恵	学部	前期	医療的ケアⅢ	火	4, 5	0.53	オムニバス					
					前期	地域連携	火	5	1.00						
					前期	生活と福祉	火	2	1.00						
					前期	健康福祉科学セミナーⅠa	火	4	1.00						
					前期	介護総合演習Ⅰ	水	1	0.67	オムニバス					
					前期	介護総合演習Ⅳ	水	2	0.67	オムニバス					
					前期	アドバンス健康福祉科学セミナーⅠ	木	4	1.00						
					前期	介護過程Ⅲ	金	3	1.00						
					前期	チーム医療実践論	金	2	1.00						
					前期	介護総合演習Ⅲ	金	1	0.33	オムニバス					
					前期	健康福祉科学セミナーⅡ	土	1	1.00						
					前期	介護実習Ⅰ	集中	—	—						
					前期	介護実習Ⅳ	集中	—	—						
					前期	助言指導(1-4年)	—	—	—						
					後期	医療的ケアⅣ	月	1,2,3,4	1.00						
					後期	健康福祉科学セミナーⅠa	火	4	1.00						
					後期	健康福祉科学セミナーⅡ	火	4	1.00						
					後期	地域連携	火	5	1.00						
					後期	アドバンス健康福祉科学セミナーⅡ	木	4	1.00						
					後期	事例研究Ⅱ	金	2, 3	1.00						
					後期	介護総合演習Ⅱ	金	1	1.00						
					後期	介護の基本Ⅲ(制度)	金	3	1.00						
					後期	介護実習Ⅱ	集中	—	—						
					後期	介護実習Ⅲ	集中	—	—						
					後期	助言指導(1-4年)	—	—	—						
					通年	介護総合演習Ⅳ	火	1	0.20	オムニバス					
					通年	介護総合演習Ⅰ	木	1	0.27	オムニバス					
					通年	介護総合演習Ⅲ	木	3	0.67	オムニバス					
					博士	通年	特別研究指導Ⅰ	土	1	1.00					
					博士	通年	特別研究指導Ⅱ	土	1	1.00					
					博士	通年	特別研究指導Ⅲ	土	1	1.00					
					コマ数集計(学部・修士・博士総計)※集中除く										
					前期:13.33コマ										
後期:12.13コマ															
管理運営業務等															
教授会・・・1回/月、学科会議・・・1回/月 (所属委員会等) なし															

番号	職位	氏名 ＜就任(予定)年月＞	退職時年齢	退職年月日	担当授業科目	採用計画
1	教授	泉 キヨ子 ＜平成32年4月＞		平成35年3月	総合リハビリテーション学特講Ⅲ 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ	【平成35年4月採用予定教員】 泉教授の担当授業科目を講義し、研究指導のできるDマル合の資格があり、60歳未満の准教授以上の教員を原則として公募により採用する予定である。
2	教授	津田 彰 ＜平成33年4月＞		平成35年3月	総合リハビリテーション学特講Ⅲ 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ	【平成35年4月採用予定教員】 津田教授の担当授業科目を講義し、研究指導のできるDマル合の資格があり、60歳未満の准教授以上の教員を原則として公募により採用する予定である。
3	教授	橋本 伸也 ＜平成32年4月＞		平成35年3月	総合リハビリテーション学特講Ⅱ 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ	【平成35年4月採用予定教員】 橋本教授の担当授業科目を講義し、研究指導のできるDマル合の資格があり、60歳未満の准教授以上の教員を原則として公募により採用する予定である。
4	教授	吉岡 幸子 ＜平成32年4月＞		平成35年3月	総合リハビリテーション学特講Ⅲ 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ	【平成35年4月採用予定教員】 吉岡教授の担当授業科目を講義し、研究指導のできるDマル合の資格があり、60歳未満の准教授以上の教員を原則として公募により採用する予定である。
5	教授	潮見 泰蔵 ＜平成32年4月＞		平成35年3月	総合リハビリテーション学研究法特講 総合リハビリテーション学特講Ⅱ 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ	【平成35年4月採用予定教員】 潮見教授の担当授業科目を講義し、研究指導のできるDマル合の資格があり、60歳未満の准教授以上の教員を原則として公募により採用する予定である。
6	教授	鈴木 幹夫 ＜平成32年4月＞		平成35年3月	総合リハビリテーション学特講Ⅰ 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ	【平成35年4月採用予定教員】 鈴木教授の担当授業科目を講義し、研究指導のできるDマル合の資格があり、60歳未満の准教授以上の教員を原則として公募により採用する予定である。